

# 歴史的景観キャラクタライゼーションに基づく土地利用の継続性が地域愛着に与える影響

愛媛大学 学生会員 ○渡邊友泰 愛媛大学 正会員 白柳洋俊

## 1. 背景と目的

人口減少や高齢化に伴い地域の衰退が懸念される中で、住民が地域の社会資本の維持及び管理や地域組織の運営に主体的に取り組み、地域の存立を支えていくことが求められている。その実現には住民一人一人が居住する地域に対して地域愛着を持つことが基本的な前提となるものと考えられる。ある対象に対しての愛着は、対象に関する記憶を想起することで醸成可能であることが指摘されている<sup>1)</sup>。これは、記憶の想起が増えるほどその対象との一体感を感じ、その結果愛着意識の醸成につながると説明される。したがって、地域愛着は地域に関する記憶の想起によって醸成される可能性がある。

それでは地域に関する記憶の想起は如何にして実現されるのであろうか。我々は地域に関する記憶を想起する際、現在の地域の景観を手掛かりにその想起を試す。このとき、現在の地域の景観が、過去の地域の景観と一致する場合、地域に関する記憶の想起を促す重要な手掛かりとして機能し、その想起が促進される可能性がある。

そこで本研究では、歴史的な景観が住民の地域に関する記憶の想起を促し、地域愛着を醸成するとの仮説を借定し、同仮説を検証することを目的とする。

## 2. 方法

### (1) 調査対象地区の概要

調査対象地域は、宇和島市旧津島町岩松地域及び北灘地域の一部の44の地区とした。同地域は、明治期に、地域内を流れる岩松川を利用した舟運が発達し、河口付近に多くの商家や蔵が軒を連ねる川湊として栄えた。2007（平成19）年に伝統的建造物群保存対策調査報告が実施されるなど、現在も歴史的建造物が多く残り、また住民により同建造物を活用した活動も実施されている。

### (2) 土地利用の継続性

本研究では、「歴史的景観キャラクタライゼーション (Historic Landscape Characterisation)」<sup>2)</sup>に基づき、歴史的な景観を長い時間変化していない土地利用と定義し、土地利用が変化しない期間である「Time-depth」を算出することで、歴史的な景観を定量的に評価する。具体的には、2018（平成30）年のゼンリン電子地図を現代のベースマップとし、1874年（明治7）年の耕地図、1986（昭和61）年のゼンリン住宅地図を基に地目が宅地、境内地、墓地、田畑、原野からなる土地利用図を作成し、Time-depthを画地単位で把握し、式(1)に基づき各自治会のTime-depthを算出した。調査対象地域のTime-depthを図-1に示す。土地利用を特定できない区画については不明として取り扱い、分析対象とした区画は合計3489筆、総面積は585.5haであった。

$$h_j = \frac{\sum_{i \in j} (h_i \times S_i)}{\sum_{i \in j} S_i} \quad (1)$$

ただし、 $h_i$ :画地*i*の土地利用の継続性(年)

$S_i$ :画地*i*の面積(m<sup>2</sup>)

$h_j$ :自治会*j*の土地利用の継続性(年)

### (3) 地域に関する記憶と地域愛着

調査対象地域に居住する世帯に対し、アンケート調査を実施した。地域に関する記憶は、地域での記憶を思い出すよう指示し、想起した記憶の位置を調査票に印字された地図

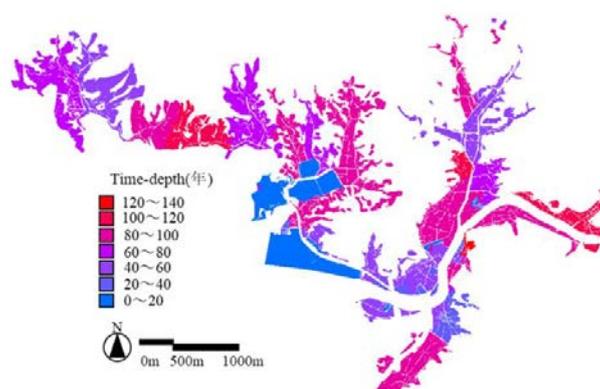


図-1 各自治会のTime-depth

内に記入するよう要請した。記入できる記憶の上限は5個までとし、同地図にプロットされた記憶のうち居住する自治会内の記憶を地域に関する記憶の想起量とした。

地域愛着は、鈴木ら<sup>3)</sup>を参考に居住する地域に対する愛着意識を「愛着(選好)」、「愛着(感情)」、「愛着(持続願望)」の3つの要素と定義し表-1に示す質問項目を設定し、同項目を5件法で回答することを要請した。アンケート調査の有効回答数は303名、回収率は20.3%であった。

### 3. 結果と考察

得られたデータを基に単回帰分析を実施した。尚、地域愛着は各要素、質問項目の平均値を算出し、指標化した。結果を表-2、表-3に示す。

Time-depthが地域に関する記憶の想起量に有意に影響を与えることを確認した。推定値は正でありTime-depthが高いほど地域に関する記憶の想起量が増加することを示す。さらに、記憶の想起を宅地や境内などの人工的な地物に関する記憶と田畑や河川などの自然的な地物に関する記憶に区分して分析した結果、Time-depthが自然的な地物に関する記憶の想起量に影響を与えることを確認した。これは、住民は自然的な地物に関する記憶の想起を、遠景の土地利用を手掛かりに試みていることを示している。一方Time-depthが人工的な地物に関する記憶の想起量に影響を与えるとの結果には至らなかった。この理由としては、住民が人工的な地物に関する記憶の想起を試みる際、土地利用以外のものを手掛かりとしている可能性が考えられる。

地域に関する記憶の想起量については、地域愛着に有意に影響を与えることを確認した。推定値はいずれも正であり、地域に関する記憶の想起量が増加するほど地域愛着が高まることを示す。以上の結果より、Time-depthが地域に関する記憶の想起量に影響を与え、その記憶の想起量が地域の愛着意識の醸成に影響を与えていることが示された。

### 4. 結論

本研究では、Time-depthが地域に関する記憶の想起量に影響を与え、地域愛着に与える影響を醸成するとの仮説を借定し、調査を実施した結果、仮説を支持する結果が得られた。

### 5. 参考論文

- 1) Twigger, C., L. and Uzzell, D. L. : Place and Identity Processes, *Journal of Environmental Psychology*, Vol.16, No.3, pp.205-220, 1996.
- 2) 宮脇勝 : 歴史的景観キャラクターライゼーションに関する研究, 都市計画論文集, Vol.47, No.2, pp.206-213, 2012.
- 3) 鈴木春奈, 藤井聡 : 「地域風土」への移動途上接触が「地域愛着」に及ぼす影響に関する研究, 土木学会論文集D, Vol.64, No.2, pp.179-189, 2008.

表-1 地域愛着の尺度及び質問項目

地域愛着(選好)	$\alpha=0.82$
1.地域の雰囲気や土地柄が気に入っている	
2.地域が好きである	
3.地域にお気に入りの場所がある	
地域愛着(感情)	$\alpha=0.85$
4.地域が大切である	
5.地域に愛着を感じている	
6.地域に自分の居場所がある	
地域愛着(持続願望)	$\alpha=0.73$
7.地域にいつまでも変わってほしくないものがある	
8.地域になくなってしまうと悲しいものがある	

表-2 Time-depthが記憶の想起量に与える影響

	地域愛着(選好)		地域愛着(感情)		地域愛着(持続願望)	
	推定値	t値	推定値	t値	推定値	t値
切片	3.68	68.36	3.93	76.59	3.61	61.70
想起量(個)	0.08	2.29**	0.11	3.38	0.15	3.96**
観測数	303		303		303	
R <sup>2</sup>	0.02		0.04		0.05	
補正R <sup>2</sup>	0.01		0.03		0.05	

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$

表-3 記憶の想起量が地域愛着に与える影響

	総想起量(個)		人工的な地物の想起量(個)		自然的な地物の想起量(個)	
	推定値	t値	推定値	t値	推定値	t値
切片	0.13	0.70**	0.14	1.84**	0.00	0.01**
Time-depth(年)	0.01	3.82*	0.00	1.00**	0.01	4.00**
観測数	303		303		303	
R <sup>2</sup>	0.05		0.00		0.05	
補正R <sup>2</sup>	0.04		0.00		0.05	

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$